

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

目次

☆活動報告	2
☆工房ぷらす	3
☆和栗さんを偲んで（田中）	4
☆油断大敵 ～第3波がすぐそこに～（三木）	5
☆バリアフリーよもやま話（岡本連載） 第100回「風の子会のおかげで」	6・7
☆「小野塚、今度は盲腸らしいよ？」 第2回（小野塚）	8
☆懐かしの写真アルバム	9
☆運営委員会報告	10
☆職員募集	11
☆寄付のお礼・所長のため息	12



↑
小春日和は
散歩日和

←みんなで
鑑賞、潮展

11.14

2020年

12月号



活動報告

- ①10月20日、工房の皆さんはマスクケースについて話し合いをしました。
- ②10月21日、企画会議をしました。ホームページについて話し合いをしました。
- ③10月21日、朝生さんと斎藤さんと野田さんの3人で、牛乳パックを取り行きました。

来年のカレンダーです。

- ④10月27日、インフルエンザの予防注射を行いました。
- ⑤10月28日、企画会議はカレンダー販売の、進み具合について話し合いを行いました。
- ⑥11月4日、企画会議をしました。カレンダーのカタログを三つ折りにして封筒の中に入れる仕事を工房の皆さんにお願いしました。
- ⑦11月9日、僕は午後在所長と一緒にカレンダーのカタログを港区区役所の方に私に行きました。
- ⑧11月11日、企画会議をしました。来年記事分担について話し合いをしました。今年は今まで通り変えずにして、来年は記事分担を変える話し合いをしました。
- ⑨11月14日、に工房の皆さんで潮展の展示を見に行きました。



朝生さんは国枝さんから牛乳パックを受け取っている様子です。

メンバー 島田龍司



工房ぷらす ☆

（10月25日～11月20日までの工房報告）

11月の主な仕事

主な活動報告

1) 11月号の会報の折り畳みと封筒入れを行った。

真剣な表情で見ている小野田さん



2) 11月11日（水）にメンバーの掛橋さんと小熊、職員の河原さん小林さん、古池さんと大井町のテルベに他の事業所の製品を視察に行く。箸入れやポチ袋など気になる物はあったが、ほとんど布製で、ミシンを使用しないと出来ない製品が多かったので風の子には残念ながら参考になるものは見つからなかった。

3) 11月14日（土）に工房のみんなと散歩を兼ねてみなとパーク芝浦で開催中の[潮展]まで徒歩と車椅子で見学に出かける。出品された作品は、シュールで前衛的作品が多く思った以上にレベルが高いのに驚かされた。作品を観賞したメンバーは、一様に感動していた。

休憩中にはコーヒーを飲みながらみんなが来年は風の子でも作品を製作して出品したいと話した。

4) 11月17日工房会議があり12月初めに1回目のスマートバックの内職が入ることが決まった。僕は、スマートバックの内職が初めてなので楽しみです。

メンバー小熊 健



やっぱり外に出ると気分がいいな



和栗さんを偲んで

10月14日（水）に、和栗健太郎さんが91歳でお亡くなりになりました。ご冥福を申し上げます。和栗さんとの思い出はいっぱいあります。僕を孫のように可愛がってくれ、本当に感謝の気持ちいっぱいです。和栗さんといえば、いつもダンディーな格好をし風の子に週3回来てくれました。帽子がよく似合う和栗さんでした。コーヒーが好きで甘いお菓子も好きで、食欲もあってお弁当も一人前食べ、それが元気の秘訣だったかもしれません。風の子では、風企画に所属し風の子便り（会報）をパソコンで打っていました。『あんぱん物語』や『戦闘機』の話などを連載として書いていました。普段は、高齢者施設「白金の森」で生活をしていた和栗さん、風の子で行事があれば買い物をしていました。もっと和栗さんと話をしたり、僕たちに戦争の体験の話を語ってほしかったです。本当にかっこ良く人生を全うした和栗さん、最後に逢ったのは亡くなる5日前、施設から連絡があり母と一緒に様子を見に行きました。部屋に入ると、ベッドで横になっている和栗さんがいました。声をかけると反応して笑顔を見せてくれました。最後まで僕たちに笑顔を見せてくれていた和栗さん、天国に行っても風の子をいつもの笑顔で見守ってほしいと思います。ありがとう和栗さん。お疲れさま和栗さん。

メンバー 田中 聡





油断大敵

～第3波がすぐそこに～

日本人は、他国に比べると衛生意識が高いからコロナ感染者数が比較的少ないのではないのでしょうか？風邪の時マスクを着ける慣習や靴を脱ぐ文化が、皮肉にもコロナ感染者数が比較的少ないと思われれます。が、これからの季節インフルエンザと重なるので油断は禁物です。手洗い・手指消毒・机の消毒・ドアノブの消毒。マスク着用は欠かせません。

メンバー 三木直人



常に手指消毒は、心がけてます。



バリアフリー よもやま話

第100回 「風の子会のおかげで」

風の子会ボランティア・運営委員 岡本 明

この連載もおかげさまで100回になりました。第1回目は2011年8月号の「福祉ってどういう意味？」でした。以後、つたない文章ですが休まず続けることができ、読んでくださった方からは、「いつも楽しみにしているよ」とか、「意外なことを知って面白かった」など、いろいろコメント、励ましをいただきました。ここまで続けられたのも、読者の皆様、風の子会の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

そのお礼というわけでもないのですが、今回は風の子会のメンバーに協力いただいて開発した装置のことをご紹介させていただこうと思います。前回に引き続き私ごとで申し訳ないのですが、今度はうまくいった話です。

脳性まひや筋ジストロフィーなどで、パソコンのキーボードを打つことができない人も、少しでも動かせる体のどこかを使ってスイッチを一つ操作できれば、オートスキャンという方法で文字の入力ができます。パソコンの画面に50音の表を表示し、パソコンが1文字ずつ順に聞いてきて(スキャンといいます)、所望の文字のところに来たらスイッチを押すと、その文字が入力されるという方法です。パソコンはまず、あ行、か行・・・と行を聞いてきて、望む文字がある行に来たときにスイッチを押すと、つぎに、か、き、く・・・と文字を聞いてきます。スキャンのスピードはその人のペースに合わせて調整できます(重度の人の場合にはかなりゆっくりになります)。

鎌倉の 行き先を 明日 ゆうかいで決まる 江ノ島 海岸に夕日にマジで 鶴岡八幡宮 赤い鳥居	あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ
	い	き	し	ち	に	ひ	み	ゆ	り	を
	う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	よ	る	ん
	え	け	せ	て	ね	へ	め	、	れ	ー
	お	こ	そ	と	の	ほ	も	。	ろ	記
	盤	移	編	削	時	頁	削	空	送	顔
	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄	⇄

これは障害の重い人でも使えるとても良い方法なのですが、望む行や文字に来たときに、うっかり逃してしまうことがあります。そうすると、スキャンは先に進んでしまい、最後まで行ってまた最初からのスキャンに戻ります

が、これにはとても時間がかかります。風の子会でも、逃してしまって「あー、しまった。」などのため息がよく聞かれました。また、たとえば「会」と書きたいときに、「か」の次に「い」を打つには、「か」を入れた後、わ行までスキャンして行って、またあ行に戻るまでじっと待っていなければなりません。これはかなりの忍耐が必要で、何かよい方法を考えたいと思いました。

そこで、風の子会で使っている人の操作の様子を何度か観察し、意見を聞き、ビデオも撮らせてもらって、状況を改めて把握しました。そして、思いついたのがスキャンの方向を変えられるキーを新しく画面に追加することです。このキーは各行の下に付けました。スキャンがここに来たときにスイッチを押すと、スキャンの方向が逆になります。そうすると逃してしまっても、もう1周回ってくるまで待たなくてもいいし、「会」のときに「か」を入れたあとに左向きにスキャンすれば、すぐあ行の「い」を打てるようになります。

実験は「逆戻りキー」つきの50音表を持つオートスキャン専用装置をつくり、それを風の子会の太田 稔さん、小田一石さん(故人)などが使っているパソコンに接続しました。お二人以外のメンバーにも何度も使ってもらった結果、入力速度が増し、ミスが減り、逃してもすぐ戻ればいいという「安心感」や、いつも一方的にパソコンから指示されたことに応えなければならないという受け身の操作ではなく、自分がパソコンをコントロールできるという「制御感」が出てきて、心理的にも良い影響があることが分かりました。

これを論文にまとめて発表したところ、日立の方の目に留まり、「伝の心」という支援装置に使っていただけることになりました。風の子会のメンバーに協力してもらって、たくさんの意見を聞き、実際の現場でのニーズをしっかりと見せてもらえたおかげです。ありがとうございました。図はメンバーだった松本恵司さんが使っていた「伝の心」の画面で、下にある「逆戻りキー ⇄」が追加されたものです。

さて、100回というのは一つの節目です。あまり長く続けるのもよろしくないと思いますので、このへんでいったん筆をおかせていただくことにいたします。長い間お付き合いいただき、ありがとうございました。また機会がありましたら、再開させていただくこともあろうかと思っております。ありがとうございました。



「小野塚、今度は盲腸らしいよ？ 第2回」

翌26日、再検査の結果虫垂炎と確定したので手術することとなった。医師から手術について説明を受ける。全身麻酔をかけ、腹部に3, 4箇所穴をあけ、腹腔鏡と鉗子を挿入して盲腸を切除する腹腔鏡手術という術式で行うらしい。単純な盲腸切除だけの手術なら4, 5日の入院ですむらしいが、盲腸が既に破れてしまっている場合は、腹の中に溜まった膿瘍を除去するためのドレーンという管を数日間挿入し続けなければならず、1, 2週間の入院となってしまいうらしい。「4, 5日入院か・・・」そう勝手に決めつけながら、コロナ禍なので手術前にPCR検査を受け、陰性が確認された上で手術室へと向かった（追記だがこの時のPCR検査は2時間前後で結果が出た。前回受けたときは5時間以上かかったのであまりの早さに少し驚いた）。

6階の手術室は広くて無機質で冷たい感じがした。手術台に移され、数人のスタッフに囲まれて事前説明を受け、麻酔医が全身麻酔をする。鼻の奥へ奥へと管を通すのだが、それがけっこうきつくて辛くてしんどいのだ。「腹が痛くて死にそうなときに、いったいあなた何してくれちゃってるんですか!？」的な感じの咆哮をあげ、抜いた管に血がべったりと付いているのを見て更に絶叫し続けていると、突然意識がなくなった。麻酔が効き始めたのだ。「小野塚さん、わかりますか？」肩を叩かれながらそう言われて目が覚めると、手術は既に終わっていた。まだ意識がぼんやりとする中、とりあえず一山越えたんだと思いながら16階の入院部屋に戻った。

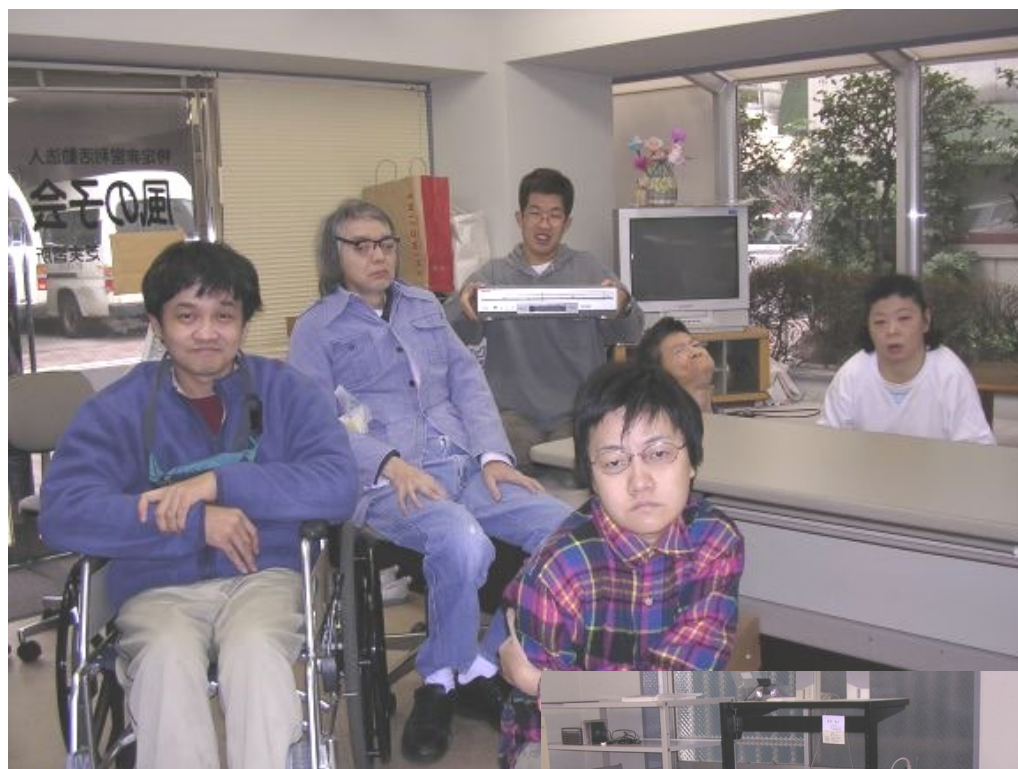
しばらくした後で医師から説明を受ける。盲腸は既に体内で破裂していたようで、溜まった膿瘍を除去するためのドレーンが左右下腹部に1本ずつ挿入されたままだった。おまけに尿道カテーテルも付けられ、左手首には点滴用の針がまだ刺さったままで、全身管だらけになったようで気分は最悪だった。手術後数日は点滴のみの栄養補給だといわれ、つまりそれは数日間絶食になるということで、つまりそれは1, 2週間の入院になるということを意味していた。7月も末になったというのにまだ梅雨は明けておらず、部屋の窓を激しく打ちつける雨音を耳にしながら絶望感に取り込まれていった。

第3回（1月号）につづく

小野塚 航



なつかしのアルバム



2003年、それはまだ風の子が高浜と芝の2所活動だった頃で、僕が風の子に入ったばかりの頃でした。活発で賑やかな高浜に対して、穏やかで落ち着いた雰囲気のある芝作業所で、ウィンドウズや一太郎を必死に覚えていったのでした。

担当・メンバー 小野塚（次回から担当が変わります）



～ 運営委員会より ～

運営委員会とは、会長に選任された運営委員で構成され、会の運営に関することを話し合っ
て決める機関です。運営委員にはメンバーも職員もボランティアも含まれていて、月
に1度集まって様々なことを話し合っています。

2020年11月の運営委員会内容

• 移転問題

→移転等経費補助金についての報告があり、了承された。

• コロナ対応

→メンバーあるいは職員の、発熱等によるコロナ疑いが生じた場
合の、会への通所停止についての方針の改善についての提案が
出され、議論し了承された。

• 職員応募状況

→引き続き募集中である。

• 防災備蓄品

→ランタンと寝袋についてのプレゼンがあり、試しに買ってみる
ことにした。

• ライオンズクリスマスパーティー

→今回は辞退することに決まった。

これらについて話し合いました。

文責 運営委員・小野塚



風の子会職員募集

応募方法 電話で申し込み

03-6809-4001 風の子会高浜生活実習所 担当 井出

選考 履歴書と実習2～3日（実習手当、交通費支給します）面接

募集要項 以下の2件

1 職種 生活介護支援員（フルタイム）

勤務内容 身体障害者の通所施設（風の子会高浜生活実習所）における、
送迎車両の運行、障害者介助、障害者の日課作業等の援助、実習所運
営

資格 普通自動車運転免許、その他資格不問、経験不問

男子 1名（64歳以下）定年が65歳のため

勤務日時 日祝木曜を除く週5日勤務、1日8時間（夏、冬休みあり）

給与 230,750円～241,940円

基本給（初年）196,250円～207,400円（採用時年齢による）

その後の昇給 毎年4月

業務手当 月 2,000円

処遇改善手当 月 12,500円

運転手当 月 20,000円

給与支払 毎月15日締め、25日支払い

賞与 夏冬 基本給の各2ヶ月分（年4ヶ月）

通勤手当 全額支給

社会保険 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、中小企業退職共済

2 職種 生活介護支援員（パートタイム）

勤務内容 身体障害者の通所施設（風の子会高浜生活実習所）における、
障害者介助、障害者の日課作業等の援助、実習所運営

男女それぞれ1～2名（年齢、経験不問）

資格 不問、経験不問

勤務日時 （1）週3日（毎週火、土 + 日祝木曜を除く1日）

1日5時間 10:00～16:00

（2）週4～5日（毎週火、土 + 日祝木曜を除く2日）

1日4時間 11:00～15:00

時給 1430円

通勤手当 実費（日額上限1000円）

給与支払 毎月15日締め、25日支払い

1995年8月10日第三種郵便物認可（毎週一回水曜発行）
2020年12月3日発行SSKS増刊通巻第8091号 風の子便り



賛助会(寄付)・物品寄付のお礼

賛助会(寄付)ありがとうございます。(10月21日～11月20日)(順不同)

園部 裕千様 特定非営利活動法人 結ぶ会様

物品寄付ありがとうございます。

信高 正義様



所長のため息

もうすぐ今年も終わりますが、今年はコロナウィルスの影響で区民祭り、外に出ようなどの外に出る行事がすべて中止になってしまいました。普段から外に出ることが大好きな風の子会にとっては、とてもストレスがたまる1年となりました。来年もどうなるか分かりませんが、今年の憂さを晴らすべく、来年は外にどんどん出られるような1年になってくれることを祈っています。

今年一年間、「風の子便り」を読んでくださった皆様、そして風の子会を支えてくださった皆様ありがとうございました。また来年もよろしくお願ひします。

。

5月号で賛助会の募集を行いましたが、皆様からのたくさんのご寄付ありがとうございます。これまでに集まった賛助会ご寄付は以下の通りです。引き続き募集しています。よろしくお願ひします。

賛助会実績（11月20日現在） 88名 4,128,600円

ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ～定価40円～

企画編集メンバー

太田 圭子	信高 正義
太田 稔	三木 直人
小野塚 航	柳川 敬事
島田 龍司	幸 高史
田中 聡	

編集人：【高浜生活実習所】生活介護、就労継続支援B型
〒108-0022

東京都港区海岸3-3-18 芝浦日新ビル5階

TEL 03(6809)4001

FAX 03(6809)4002

ホームページ：<http://www.kazenokokai.or.jp/>

e-mail：kazenoko@kazenokokai.or.jp

発行人：障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区祖師谷3-1-17

ヴェルドゥーラ祖師谷102